

# '19.3

毎月1回20日発行 定価 1部60円  
発行人 兵庫県商工会連合会  
代表者 志智宣夫  
発行人住所 神戸市中央区花隈町6番19号  
☎078(371)1261(代)☎650-0013  
http://www.shokoren.or.jp/  
編集人 幸田 徹  
印刷所 有限会社 浜田デザイン写植  
会員の購読料は会費に含んでおります

第739号

# 兵庫県 商工連会報

(題字は井戸知事)

Hyogo Prefectural Federation of Societies of Commerce and Industry

平成30年度 スローガン

## 商工会は行きます 聞きます 提案します



▲暮らしのことなら何でも相談できるお店「パワーず むらかみ」の従業員一同

### Contents

- 県連合会Letter ————— 2～3頁
  - ・スーパーバイザー派遣事業
  - ・同友会創立40周年記念事業
  - ・経営革新支援会議(現地視察)
  - ・ビジネスマッチング商談会(姫路市)
  - ・定住促進冊子の作成(宍粟市)
- あなたのまちの元気な企業(加東市) 4頁
- CAコラム ————— 5頁
- ニッポン全国鍋グランプリ ——— 6頁

いる。  
家電やインテリアをデコレーションし、空間をプロデュースする「Matou」を新規事業として開始し、人の「ご縁」がつながる街の電気屋さんを目指して、地域コミュニティの育成とIT活用の両輪で、新しいチャレンジが進んでいる。  
(詳細は4頁)

中国自動車道・滝野社インターから南東へ車で10分ほど走ると、のどかな田園が広がる中に、Panasonicの街の電気屋さん「パワーずむらかみ」はある。  
加東市を中心に、電化製品の販売や電気工事、水道工事、リフォーム工事など、暮らしのことなら何でも相談できる店舗を運営している。

人の「ご縁」が繋がる  
街の電気屋さんを目指して  
**パワーずむらかみ**  
(加東市)

# 求められる支援能力の底上げ!! スーパーバイザー派遣事業

現在の商工会は、中小企業・小規模事業者への多様化・複雑化した経営支援や地域の課題を解決するための事業に注力しており、慢性的に陥っているマンパワー不足が課題である。それを補完するために、若手職員や経営支援に取り組み機会の少ない職員の支援能力の底上げが急務となっている。

そこで兵庫県商工会連合会では、全国商工会連合会の「スーパーバイザー派遣事業」の採択を受け、職員の支援能力の強化と標準化を図るため、スーパーバイザー5人を設置した。特に事業承継支援については3ヶ年計画を策定し、チーフコーディネーターの支援活動のモニタリングとモデリングによる支援手法・スキーム等の確立をはじめ、最終的には全職員が支援に取り組む基盤を構築することとしている。

また、時期を同じくして各商工会では平成30年度に設置された「兵庫県事業承継ネットワーク」から求められる事業承継診断や独自のアンケート調査により、事業者の実態把握に努めている。この中から緊急性の高い事業者の支援に着手し、必要に応じてスーパーバイザーのOJTを活用した。中には平成30年度事業計画の重点項目に事業承継支援を掲げ、精力的に取り組む商工会もある。

また、時期を同じくして各商工会では平成30年度に設置された「兵庫県事業承継ネットワーク」から求められる事業承継診断や独自のアンケート調査により、

## 3月のこよみ

- 5日(火) 第3回共済事業委員会
- 7日(木) 人事調整委員会、第4回人事管理委員会
- 8日(金) 第3回事業委員会
- 15日(金) 第2回総務委員会
- 18日(月) 第4回正副会長会
- 26日(火) 理事会、臨時総会

## 4月のこよみ

- 23日(火) 第52回県女性連通常総会
- 25日(木) 第52回県青連通常総会



▲靖国神社にて集合写真

全国商工会連合会顧問の宮本周司氏を交えた懇親会では、青年部時代の話や、経営の話など大変盛り上がりを見せた。  
2日目は、参議院議員会館において、経済産業省小規模企業振興課統括課長補佐の斉藤氏から「中小企業・小規模事業者施策について」をテーマに説明を

1月27日、28日に県商工青年同友会（安積進会長）は創立40周年記念事業として、東京へ視察研修を行い、17人が参加した。40周年を迎える同友会は、兵庫県その他に富山県のみであり、全国的にみても歴史が深い。  
1日目は、靖国神社の正式参拝の後、隣接する遊就館において、英霊のご遺書・ご遺品と歴史記述パネルの展示を観覧した。

# 同友会 創立40周年記念事業 東京視察研修



▲中小企業・小規模事業者施策について説明を受ける

受けた。また、1日目に引き続き、宮本周司氏からも事業承継税制等についての説明があった。



▲各種施策について資料を基に説明を受けた

また、移転問題で大きな話題となり、昨年10月に約2年遅れ

その後、中小企業基盤整備機構に場所を移し、理事の田所氏と堺井氏から、「ファンド事業」や「ハンズオン支援事業」等、中小機構が展開する様々な支援施策について説明を受けた。

でオープンした豊洲市場を訪れた。飲食店エリアでは、平日の昼過ぎながらどのお店も日本人観光客だけでなく、インバウンド客で溢れていた。  
2日間とも天候に恵まれ、日本の中心地である東京で、最新の情報や最先端の建築物やスポットに触れることができ、参加者からは「これを機に、是非定期的に東京研修を行い、刺激をもらいたい」と非常に好評であった。  
なお、今年度全国では青年部、女性部に次ぐ内部組織として認可された（全国商工会壮青年部連合会という）。

## 国家公務員の再就職等規制にご協力を

国家公務員の営利企業等への再就職は禁じられていますが、国家公務員法では、公務の公正性に対する国民の信頼を確保するため、次の3つのルールを設けています。

- ①現役の国家公務員が、営利企業等に対し、他の国家公務員・OBの再就職を依頼することや、再就職させる目的で情報提供等を行うことは禁止されています。
- ②現役の国家公務員が、利害関係企業等に対し、求職活動を行うことは禁止されています。
- ③再就職した国家公務員OBが、再就職先の契約や処分に関し、便宜を図るような職場に働きかけを行うことは禁止されています。（原則、退職後2年間）

☆皆様へのお願い 規制違反を未然に防ぐ観点から、国家公務員・OBにこうした行為を求めないよう、また、規制違反が疑われる行為を見聞きした場合には、下記連絡先まで情報提供いただきますよう、お願いします。秘密を厳守します。

●お問い合わせ先 内閣府 再就職等監視委員会事務局  
電話 03-6268-7660~7668・7681  
URL <https://www5.cao.go.jp/kanshi/index.html>

# 経営革新計画認定企業へ視察を実施

県連合会では、1月16日に篠山市内にて、経営革新計画支援に係る篠山市商工会（圓増亮介会長）の事例紹介と、現地視察を行った。



▲取り組みについて紹介を行う  
(左)東雲化工の榊山氏(右)と  
篠山市の北島課長(右)



▲左から、取組について紹介を行う  
兵庫県中小企業団体中央会の今橋氏と  
(右)青山産業研究所の久保氏、青山氏

経営革新計画とは、「新商品の開発または生産」、「新役務の開発または提供」、「商品の新たな生産または販売方式導入」、「業務の新たな提供の方式の導入その他新たな事業活動」といった、事業者が新たに行う事業活動が対象となる。県内商工会においても、支援機関として積極的な事業所支援を行っている。

事例紹介では、篠山市商工会の北島課長、前中主幹から取組について説明があった。  
現地視察では、篠山市にある2事業所へ現地視察を行った。

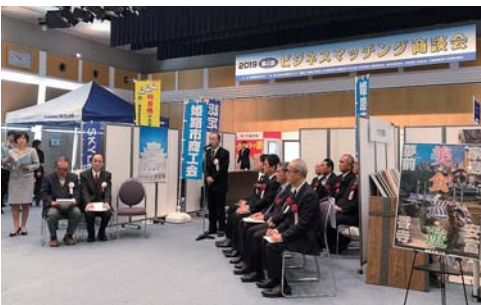
1事業所目は、釣り具製造業の有限会社東雲化工。取締役・榊山直樹氏より、生産工程の自動化に取り組んだ事例について話をいただいた。  
2事業所目は、和装の足袋の留め具「こはぜ」の製造、販売を行う株式会社青山産業研究所の取締役会長・青山佳司氏と代表取締役・久保佳代氏から、海外展開を計画し、商談会出席をきっかけとして、海外有名アパレルメーカーとの取引に至る過程について、詳しく話を聞くことが出来た。

# ビジネスマッチング商談会2019

27の企業が出展!

姫路市商工会(北村正和会長)主催の「ビジネスマッチング商談会2019」が1月15日にあゆめつせホールにて開催された。

この商談会は個性あふれる中小企業の優れた技術や製品を一室に出展し、販路拡大、企業間連携の実現、情報収集・交換などのビジネスチャンスとすることを目的としている。姫路市の企業はもちろんのこと、福崎町や市川町、宍粟市、太子町の全27企業が出展した。商談会開始早々、バイヤーをはじめ多くの来場者がブースを訪れ、にぎわいを見せていた。



▲ビジネスマッチング商談会開会式で  
あいさつをする北村会長

# 「えんちやう宍粟」で定住促進 生活係数等で都市部との暮らしを比較

宍粟市商工会(三渡圭介会長)では、ひょうご「まちおこし」支援事業の補助金を活用し、市・西兵庫信用金庫(本店・宍粟市)との連携・協力のもと市内への定住を促進する冊子「えんちやう宍粟」を作成した。

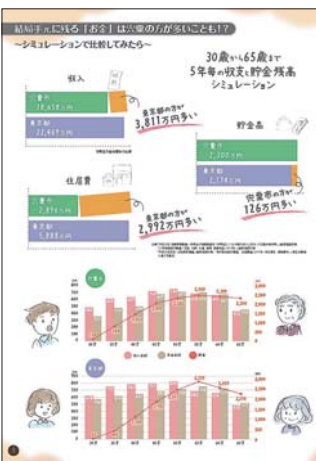
これは、人口減少に伴う宍粟市内の市場縮小や人手不足等への対策のために、流出が顕著な市内の若者に焦点を当て、その地元就職ならびに定住促進の啓蒙と、意識の醸成を目的としている。

これにより、卒業後に地元就職を希望する生徒を増加させることのみならず、一旦都市部に出た若者が、大学卒業後や転職時等に、地元での就職を促すことにも繋げることで、結果としての人口流出抑制も図る。

今後も、継続的に中長期的な視点も持ちながら、宍粟市の活性化に向けて様々なことに取り組んでいく。



▲「えんちやう宍粟」表紙



▲宍粟市に定住するメリットがイラスト入りで分かりやすく掲載

# あなたのまちの元気な企業

## InstagramとLINE@を活用し プロモーションからコミュニケーション戦略へ

ばわーずむらかみ(加東市)

### 今までのスキルを活かした新規事業「Matou」

新規事業の立ち上げを第一線で引く張るのは、子育てがひと段落して現場復帰した社長の奥様の村上加奈子さん。きっかけは、お客様から空間にインテリア性を持たせてほしいという相談だった。アクセサリデザインや製作販売を行っており、ものづくりが好きだった加奈さんは、無機質に感じる電化製品を Dekorレーションし、お客様のライフスタイルや事業所の雰囲気にあつた空間創りに取り組み始めた。



▲家電だけでなく  
建具にも「Matou」。

播州織の生地を使ったり、簡単に Dekorレーションできるように  
カットイングシートを用意し

たりと、「Matou」の付加価値向上に日々取り組んでいる。

### 「Matou」を身近な存在にしてくれた Instagramの存在

取り組みが少しずつ口コミで広がっていく中で、「インスタ映え」を狙い、Instagramを使った情報発信をスタートしたが、活用方法に迷っていたところ、商工会から「ITアドバイザー派遣制度」を利用してみては、と提案を受けた。

まずホームページ、Facebook、Instagram、LINE@と様々なメディアの活用を検討していたことから、各メディアの特徴、主な利用世代、活用事例といった点を整理する所からスタートした。

次に、「ばわーずむらかみ」、また「Matou」として、それぞれ大切にしていることや、事業の強み、販路拡大に向けてチャレンジしていきたいことを整理し、顧客や情報発信の目的、内

容、想定できる効果などを総合的に検討した。

結果として、「ばわーずむらかみ」ではLINE@、「Matou」ではInstagramを強化することとなった。また支援を経て、「みんな」に情報を届けるのではなく、ターゲットを絞り「あなただけの」情報発信に取り組むことの重要性に気付くことができた。



▲Instagram等SNSで積極的に情報発信を行う。

一方で、加奈さんは地元メディアに出演して「Matou」をPRし、ITだけに頼らず地域コミュニケーションでの露出を高めることで、相乗効果を生み出している。

昨年9月に始めたInstagramは、今年1月でフォロワー数82人。100人の目標達成には至っていないが、「インスタを見て…」という問い合わせから施工に繋がった実績も出てきており、情報発信効果に手応えを感じている。

### プロモーションから コミュニケーション戦略へ 「LINE@」の活用

InstagramやFacebookを始めたことにより、「ばわーずむらかみ」をより身近に感じてもらえるようになり、来店されるお客様の年齢層が広がった。

また、お客様のリピート率向上のため、密な情報発信を行えるよう、コミュニケーションに重点を置き、距離をさらに近づけていくためのITツールとしてLINE@による情報発信を進めている。

まずは、店舗に来店された顔なじみのお客様に、LINE@での情報発信を閲覧してもらおう所からスタートした。

また、新しい試みとして、店舗の1階は料理教室、2階の空きスペースでは、アロマやアイシング等のおけいこサロンを定期開催し、今まで接点がなかったお客様と繋がる機会を作り出している。さらに、こういった潜在顧客に対してコミュニケーションが取れるようにLINE@で繋がって行くことを大切にしている。

配信する情報は、折り込みチラシに掲載しないリアルタイムなセール情報が中心になるため、

LINE@からチャットで問い合わせができる体制づくりを検討中である。当面の目標は、LINE@で繋がったお客様と顧客情報を結び付けて、One to Oneマーケティングを行うことに置き、売上拡大を目指している。

今後もITアドバイザー支援を活用しながら、人のご縁が広がる街の電気屋さんを目指してチャレンジは続く！



寺本勝哉経営指導員から一言

ITアドバイザー派遣をはじめとした、専門家派遣制度は、会員企業の課題解決に向けて、高度な知識を有する専門家と地域密着型でサポートする経営指導員(支援員)とが連携し、会員企業の売上向上と利益の獲得を目指して支援を行います。

今回の専門家派遣では、相談企業にとって「ターゲットは誰か」「どのようなサービスを求めているか」「最適なITツールは何か」「当地域の消費者の購買行動はどうか」等を考えながら支援を行いました。

今後も地域の事業所、企業の相談に耳を傾け、寄り添い、伴走型で企業の経営支援を行っていきます。

#### 【企業概要】

社名/株式会社  
村上住設  
代表者/村上 重幸  
住所/兵庫県加東市  
藤田148-2  
Instagram・Facebook:  
「ばわーずむらかみ」で  
検索

CAコラム

伴走型広報支援とは



兵庫県連会報  
アドバイザー  
大谷 芳弘

私は広報の専門家として、伴走型広報支援と名付け兵庫県を中心に全国で新製品・新サービスのプレスリリース作成に関するアドバイスを発行しております。広報は大きく分けて3つに分類されます。まず1つ目が「広報の考え方」で企業理念やコンセプト、そしてビジョンに関して整理をして何を、どんなターゲットに対して広報していくのか？その商品&サービスの強みは何か？についてまず整理を行います。2つ目は「広報のやり方」で、プレスリリースの作成方法についてアドバイスを発行します。そして3つ目は「広報の伝え方」で、どのようにマスコミへ情報発信を行うのかについてアドバイスを発行します。

■合同記者発表会の開催

伴走型広報支援の出口戦略として現在、3年前から豊岡市商工会にて新製品&新サービス合同記者発表会を開催しております。こちらは経営指導員と共にセミナーおよび個別相談を行っ

た後に8社合同でマスコミの方に向けて記者発表を行います。2部構成で、第一部が各事業者から6分間の発表、記念撮影の後、第二部で展示会を開催しその場で取材していただきます。小規模事業者は新製品があつたとしても1社では、なかなか取材されにくく、このように複数の事業者が集まることでマスコミから注目を集め取材されやすくなります。



▲平成30年度豊岡市商工会合同記者発表会

■広報3つのポイント

広報で大切なことは3つあり、一つ目は商品の説明よりも、「なぜその商品を作ろうと思ったのか」「ターニングポイントは何か」について語ることで、事業所様の商品に対する想いを込めて広報していくことが大切です。二つ目は、これまでの商品と何が

■事業承継と広報

異なるのかわかりやすく説明をすることで。例えば食べ物であれば①食感、②味、③見た目、④原材料、⑤こだわり、⑥価格などの項目に分けて説明を行うと記者様にわかりやすく説明をすることが出来ます。三つ目はその商品がどのように社会に役に立つのかについて説明をします。例えば兵庫県川西市にある「ケーキの大谷」では、川西市の特産品であるいちじくを使った洋菓子を販売することで川西市のいちじくを宣伝することができ地域の活性化に繋がります。

近年、支援で増えたのが事業承継のタイミングで後継者の方が、新たな事業戦略の策定・実施に際して広報を実施する例です。事業承継で後継者が広報すべきことは①創業者の想い(経営理念) ②これまでの中でのターニングポイント ③5年先の将来ビジョンの3つです。例えば豊岡市で靴の製造および販売を行っている株式会社昭栄様は、業界全体の事業承継の為に、平成28年専門サイト「靴人」をオープン、靴の製造を依頼したい企業や人を繋げ「技術の継承サイクルが止まらない為の仕組みづくり」を行っています。さらに平

成31年には新たに一般消費者向けにライフスタイル別の靴専門モール「靴人ショップ」を立ち上げ、プレスリリースを行い情報発信することで売上アップを目指していきます。このように後継者の方に広報を学んでいただき事業を磨き上げたタイミングで、広報を実施していただくと効果が期待できます。最後になりますが、広報の成功の秘訣は「いいきる」「やりきる」「絶対続ける」ことです。広報で困っておられる方がおられましたら、ぜひ相談してください。

始めませんか～新しい環境貢献～

ひょうご「企業の森づくり」

環境への貢献のため、森林整備をお考えの企業や団体等の皆様のお手伝いをします。

- 活動フィールドの斡旋
- 森林整備についての助言・提案・技術指導
- 施業委託先の紹介

◆お問い合わせは◆

(公社)兵庫県緑化推進協会 兵庫県農政環境部 農林水産局 豊かな森づくり課  
〒650-0013 〒650-8567  
神戸市中央区花隈町12番6号 第三大知ビル6階 神戸市中央区下山手通5-10-1  
TEL 078-341-4070 / FAX 078-341-4071 TEL 078-362-3613 / FAX 078-362-3954  
URL: <http://www.hyogo-green.net/>

—ひょうごの中小企業を補償でサポート！—  
商工会の共済事業として会員の福利厚生をお手伝いする



ひょうご共済  
兵庫県共済協同組合

〒650-0011 神戸市中央区下山手通6丁目3-28  
兵庫県中央労働センター4階  
☎078-361-8080 www.ken-kyosai.or.jp

SMBC SMBCグループ

確実にやるのは  
どこでもできる。  
確実に速くやるからこそ  
「価値」になる。

三井住友銀行

ニッポン全国鍋グランプリ2019 in 姫路

姫路市において、1月26日、27日に、全国各地から鍋自慢が集結し、ご当地鍋日本一を選出する「ニッポン全国鍋グランプリ2019」が姫路市商工会（北村正和会長）の主催で開催された。北は北海道から南は熊本まで28都道府県から、県内13団体を含む60団体が参加し、26日には4万2千人、27日には6万1千人が来場した。



▲「いただきます」の掛け声で開会宣言をしている様子

本グランプリの仕組みは、参戦鍋を購入し、食べ終わったあとの空カップを投票権と交換、おいしいと思った鍋に投票し、来場者全員で、日本一を決める、という極めてシンプルな方法。



▲鍋グランプリの様子

● 結果一覧 ●

金の鍋賞	和牛の柚子とろろすき焼き（兵庫）
銀の鍋賞	札幌スープカレー鍋（北海道）
銅の鍋賞	香住ベニガニのかにすき（兵庫）
優秀賞（4位）	恵幸川鍋（兵庫）
優秀賞（5位）	つがるにんにく塩こうじ鍋（青森）
優秀賞（6位）	山陰浜田港天然あんこう味噌鍋（島根）
審査員特別賞	阿蘇くまもとトマトおでん鍋（熊本）
審査員特別賞	みかん鍋（山口）
審査員特別賞	博多とん骨もつ鍋（福岡）
姫路市長賞	姫路おでん鍋（兵庫）
キリン1番搾り賞	夢もち鍋（兵庫）
ヨシケイ賞	恵幸川鍋（兵庫）
ヤマキ賞	網干カキ天鍋（兵庫）

来場者の投票の結果、金の鍋賞（グランプリ）は、兵庫県知事賞には、グリーンエコー笠形（神河町商工会）の「和牛の柚子とろろすき焼き」が選ばれた。

銀の鍋賞（総合第2位）には「札幌スープカレー鍋」（札幌市）、銅の鍋賞（総合第3位）には香美町商工会の「香住ベニガニのかにすき」が選ばれ、2020年に埼玉県和光市で開催されるグランドチャンピオン大会への切符を手にした。

グランドチャンピオン大会も優勝するぞー！



▲第3位に輝いた香美町商工会



▶トロフィーを授与される神河町グリーンエコー笠形のみなさん

銅の鍋賞「香住ベニガニのかにすき」

金の鍋賞「和牛の柚子とろろすき焼き」



▶香住漁港水揚げされる香住ベニガニを使った冬の鍋の定番



▶黒毛和牛のすき焼きに地元産ゆずと自然薯を入れた工夫が参加者の舌をうならせた

